

- ・職場の人間関係や雰囲気がよく、働きやすく働きがいのある学校であること。
- ・教職員同士が切磋琢磨しながら、専門性を高められること。
- ・子ども達と充実した毎日を過ごすことを通して、子ども達が成長を目の当たりにすること。

4 学校経営の基本的原則

【判断基準】 「こどものために」 (こどもまんなか学校)

【問題解決の方策】 「組織で」「保護者や地域の方と共に」

【3Sの心がけ】 スマイル (笑顔48%増) スピーディー (Action24)

セーフティ (もしかしたら・・・)

5 人権こどもまんなか5本柱

(1) こどもたちが創るよりよい学校・学級

- ・高学年児童が中心となり、学校をよりよくする活動を行う。
- ・子どもたちが中心となってよりよい学級を創り、自治的な力を伸ばす。
- ・子どもたちの力で、学校や学級全体にいじめを許さない雰囲気をつくる。
- ・学習者主体の授業を行う。

(2) 人権に関する知的理解と人権感覚

- ・全教育活動を通して、人権に関する知的理解を深め、人権擁護を実践しようとする気持ちを高める。
- ・子どもたちの人権感覚を高め、友達同士の認め合い、助け合いが行われる温かい学校・学級をつくる。
- ・縦割り班活動や小中連携活動等の充実を図り、多様な他者と関わりをもつ機会を意図的に設定していく。

(3) 一人一人の学びの保障と有明授業スタイル

- ・教師が「教える」から、こどもが「学ぶ」授業へと、指導観の転換を図る。
- ・ICTを効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る。
- ・自己調整力を高めるために、「学習の計画や見通し」「学びの振り返り」を授業に位置付ける。

(4) 心と体の健康

- ・体育の授業や体育的行事を通して、体を動かす心地よさや友達と協力したり競い合ったりする楽しさを感じさせ、生涯にわたって運動・スポーツに親しむ態度を養う。
- ・保健指導、給食指導の計画的な実践を通して、心や体の健康に関する関心を高める。
- ・養護教諭による保健指導 ・栄養士による給食指導、食育指導

(5) 人権こどもまんなかの基盤となる道徳教育

- ・別様を活用しながら全教育活動における道徳教育を充実させ、道徳科授業で補充、深化、

統合を行う。

- ・道徳科授業では、多様な考えに触れ、自分自身を見つめることで、こどもの道徳性を育てる。
- ・全校道徳を通して、家庭と連携しながらこどもの心を育てる機会をもつ。
- ・道徳教育を人権こどもまんなかの基盤とする。

6 特色ある教育 8点

① ICT 教育推進校

- ・江東区教育委員会 ICT 教育推進校として、一人一台端末を効果的に活用し、個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現させていく。

② やっちゃんえ！ ARIAKE

- ・こどもたちの幸せのひとつである「チャレンジすること」を学校・学級で応援する文化をつくる。
- ・失敗を恐れず、試行錯誤できる環境を整える。
- ・こどもだけでなく、教職員もよりよい学校づくりのため、こどもの成長のためにやりたいことがあったら躊躇せず実行する。

③ 小中連携教育の推進

- 連続部 ・小中授業研究会 ・授業交流期間
- 接続部 ・合同避難訓練 ・「有明小中学び方スタンダード」
・「SNS 有明小ルール」の定着
- 交流部 ・中学生読み聞かせ ・ふれあいデー ・クリーン作戦
・挨拶運動 ・ユニセフ募金 ・委員会交流

④ 縦割り班活動

- ・月1回の活動に加え、清掃、全校遠足等の活動も高学年を中心に縦割り班で行っていく。

⑤ 家庭・地域との連携

- ・個人面談や保護者会を通して、学校・家庭における連携を図る。
- ・学校地域協働本部と協力して、地域企業との連携や避難所開設訓練を行っていく。
- ・全校道徳や学校保健委員会等の活動を通して学校、地域、家庭の連携協力による教育活動を行っていく。

⑥ 教育活動の公開・情報発信

- ・年3回の学校公開 ・アリアケスポーツデーや有明祭、音楽朝会等の公開
- ・学校HP ・メール配信 ・PC 端末を活用した情報発信

⑦ Challenge Wednesday

- ・毎週水曜日をこどもが主体的に学ぶ日とし、原則として宿題ではなくこどもが自

分の学習状況や個性に合わせて計画を立てて家庭学習に取り組む。

⑧ Speak Up

- ・自分の意見を自分の言葉で堂々と述べられるこどもを育てていく。

終わりに

☆ 誰もが幸せになれる有明小をみんなで作っていきましょう！